

旅行取扱状況の概観（平成28年1月分）

下記、月次取扱額は、近畿日本ツーリスト(KNT)とKNT個人旅行、クラブツーリズム、KNT北海道、KNT東北、KNT中国四国、KNT九州、ユナイテッドツアーズ、KNT商事の合算額となります。

記

海外旅行の取り扱い、一般団体は前年比98.0%、学生団体は同81.3%、団体旅行合計で同91.5%と前年を下回った。企画旅行については前年比82.4%、個人旅行についても同93.2%と前年を下回った。この結果、海外旅行総取扱額としては、前年比86.4%と前年を下回った。

国内旅行の取り扱い、一般団体は前年比112.7%、学生団体は同106.7%、団体旅行合計で同108.8%と前年を大きく上回った。企画旅行については前年比99.2%と前年並みであったが、個人旅行については同97.9%と前年をやや下回った。この結果、国内旅行総取扱額としては、100.8%と前年を上回った。

外国人旅行は、前年比147.4%と前年を大きく上回った。

以上の結果、ホールディングス主要会社の1月の総取扱額は前年比96.8%となり、前年を下回った。

【主要会社の状況】

1. 近畿日本ツーリスト株式会社

海外団体については、一般団体は大型の招待旅行やコンベンション等取扱いしたものの、テロ等の外的要因で取扱い団体数が減少したことにより、前年比97.7%と前年をやや下回った。学生団体は修学旅行の取扱校数の減少により、同81.3%と前年を下回った。その結果、海外団体旅行合計で同91.3%と前年を下回った。

国内団体については、一般団体は大型の企業系コンベンションやS I Tの取扱いにより、前年比115.3%と大きく上回った。学生団体は複数の大型の修学旅行の取扱いにより前年比106.7%と上回り、国内団体旅行合計で前年比109.6%と大きく上回った。

2. 近畿日本ツーリスト個人旅行株式会社

メイトは、取扱額で前年比90.4%と前年を下回った。方面別取扱人数の状況では、東北、北陸、南紀、九州は好調を維持しているものの、全般的に伸び悩んだ。

ホリデイは、様々な外的要因があり、取扱額で前年比75.0%と前年を下回った。方面別取扱人数の状況では、ハワイ・アメリカ・台湾が前年を超えてはいるものの他方面は全般的に不調であり、全方面合計で前年を下回った。

3. クラブツーリズム株式会社

海外旅行部門は、パリで発生したテロの影響により、ヨーロッパ方面の販売が鈍化したことや年末年始のクルーズ旅行の販売が不振であり、取扱額で前年比80.9%と前年を下回った。

バス旅行を除く国内旅行部門は、道南方面が好調であり、前年比100.2%と前年を上回った。

バス旅行部門は、スキーバスの転落事故の影響があったものの、地方創生のふるさと割ツアーの追い風を大きく受け、取扱額で前年比115.8%と前年を大きく上回った。

テーマ旅行部門は、プラハ放送交響楽団の貸切公演やあべのハルカスで実施したイベントの集客など好調であり、前年比107.8%と前年を大きく上回った。

以上